

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

工業高校としての歴史をもち、多様な進路実現をめざす総合学科の高校の定時制の課程として、互いの多様な価値観を認め人権尊重の態度を養い、自己肯定感を高め自ら夢や志を抱いて人生を切り拓く力を育てる。

1 人権尊重の態度を養い、互いに多様性を認めあえる豊かな心をもった人材を育成し自己肯定感を高め自ら夢や志を抱いて人生を切り拓く力を育てる。

2 生涯にわたる幸福をめざし、基礎的・基本的な知識・技能の習得と「思考力・判断力・表現力」をはぐくみ、将来を担う職業人として求められる資質・能力を育成する。

3 学校内外の様々な活動を通して、他者と協働する力やコミュニケーション能力を育成する。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の定着と自主性・自立性の育成（生涯にわたる幸福をめざし、将来を担う職業人として基礎的・基本的な知識・技能の習得と自主性・自立性の育成）
- （1）Well-being を志向する社会に適応し、生きて働く「知識・技能」を習得し、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育み、ICT の活用を含めた「主体的・対話的で深い学び」の実践を通じて「基礎学力の充実」をはかる。
- （2）自主性・自立性の育成を重視したキャリア教育の充実をはかり、進路選択のサポートを強化し、進路決定率を R10 年度まで 90%以上を維持する。
- ※R5：92.0% R6：91.3% R7：92.9%
- （3）「学びに向かう環境づくり」をめざし、欠席・遅刻等の改善をはかり退学率を下げる。
- ※全出席率を R10 年度に 50%以上をめざす。 R5：56.5% R6：58.6% R7：48.6%（参考：遅刻・早退を含む出席率 R6：83.3% R7：77.2%
- ※文部科学省が公表した令和 4 年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率 7.6%以下を維持する。 R5：8.3% R6：1.4% R7：7.2%
- 2 人権尊重の意識と協働力・コミュニケーション力の育成（人権尊重の態度を養い、互いに多様性を認めあえる豊かな心をもった人材の育成と他者と協働する力やコミュニケーション能力の育成）
- （1）人権感覚を高め、人権意識を深め、互いに多様性を尊重する学びの場を提供し、自尊心と自他を思いやる豊かな人間性を育む。
- （2）体験活動等の充実を図り、心身ともに健やかに、人生を切り拓く力を育成する。
- （3）あいさつ運動の定着化により、社会人として必要な基本的生活習慣と規範意識を身につける。
- （4）安全安心な学びの場について、ソフト面及びハード面の両面における整備の充実をはかる。特に、ソフト面では「高校生活支援カード」や中高連携から得られた情報を有効活用するとともに、SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）や SC（スクールカウンセラー）等を活用し、ヤングケアラーを含む生徒の課題の克服をめざして家庭・地域・外部機関との連携をはかる。
- 3 学校運営の活性化と教職員の資質・能力の向上
- （1）各分掌、各委員会、各学年における年度末の総括を踏まえ、各担当業務の改善をはかる。
- ※学校教育自己診断における「教育活動の改善」に関する設問について肯定的回答 50%以上を R10 年度まで維持する。 R5：37.6% R6：64.7% R7：55.0%
- （2）OJT と外部研修を組み合わせ、個々の教職員のキャリア形成に必要な資質・能力の向上をはかり、リーダーの育成に取り組む。
- （3）教職員の同僚性を向上し、活気のある職場づくりをめざす。
- 4 開かれた学校づくりの取組みを推進
- （1）地域との連携、地元中学校および保護者等への広報をすすめる。
- （2）地域とともに歩み、親しまれる学校づくりに努める。
- （3）学校 HP を活用して定時制の取組みを中学校や地域に対して広報をすすめる。
- 5 校務の効率化と働き方改革の推進
- （1）労働環境の保全と校務の効率化を推進する。
- （2）労働安全衛生管理体制に関する業務量管理・健康確保措置計画に基づき働き方改革を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と自主性・自立性の育成	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実践	(1)・生徒一人ひとりの学びに寄り添い、ICT 活用や独自プリントの作成によりユニバーサルデザインの授業構築をめざし、協働して深い学びに向かう姿勢を育み、「基礎学力の充実」をはかる。 ・R 9 年度入学生に間に合うように系列の改編と選択科目等の見直しを行い生徒にとって魅力ある教育課程を作る	(1)・学校教育自己診断（生徒）の「学校の授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答率 60%以上を維持。[60. 6%]	
	(2) 自主性・自立性の育成を重視したキャリア教育の充実	(2)・1 年次より卒業後の姿をイメージさせ社会人として生きていく意識を育成する。 ・特別非常勤やハローワーク等と協力して生徒の自主性・自立性を育みつつ、キャリア意識の育成を支援し、希望の進路確保の実現をめざす。 （教育産業等の外部機関等との連携により有用な情報提供を行う。また、企業見学を充実させ生徒のニーズに応じた自己実現を支援する。） ・保護者進路説明会等を通じて保護者との連携を充実させ、家庭の支援を高める。	(2)・進路希望者の進路決定率 90%以上を維持。[92. 9%] ・幹旋就職希望者の応募前職場見学会や企業訪問を 100%参加。[100%] ・外部人材協力によるキャリア教育を 4 回以上実施[3 回] ・学校教育自己診断（生徒）の進路指導に関する設問の肯定的回答率 70%以上を維持。[73. 7%] ・学校教育自己診断（保護者）の進路指導に関する肯定的回答率 65%以上維持。[77. 8%]	
	(3)「学びに向かう環境づくり」と欠席・遅刻等の改善	(3)・生徒面談を随時行い、生徒に寄り添った丁寧な指導を行う。生徒一人ひとりの課題の早期発見・早期対応につなげる。	(3)・全出席率(生徒登校率) 50%以上。[48. 7%] ・退学率 7. 6%以下を維持。[7. 2%]	
2 人権尊重の意識と協働力・コミュニケーション力の育成	(1) 人権尊重の教育の推進	(1)・人権研修を通じて身近な差別事象や人権問題について正しい理解を深め、自尊心と自他を思いやる豊かな人間性を育む。	(1)・学校教育自己診断（生徒）の人権に関する設問で肯定的な回答率 80%以上を維持。[84. 2%]	
	(2) 体験活動等の充実	(2)・文化祭、球技大会等の体験活動をより一層充実させ、健やかな心身を育むとともに人と協働する楽しさを学ぶ場を提供する。 ・生徒会の活動を活発化させ、生徒の自主性や創造性を育む。 ・部活動の活性化をはかる。	(2)・学校教育自己診断（生徒）の学校行事に関する設問で肯定的な回答率 60%以上を維持。[68. 4%] ・部活動参加のべ人数 50 名以上を維持。[53 名]	
	(3) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成	(3)・社会人として基本的なあいさつや礼儀に関する習慣を身につける。 ・通信機器や情報機器等の適切な使用マナーを含む情報リテラシーを身につけさせる。	(3)・学校教育自己診断（生徒）の「決まりや校則」に関する設問で肯定的な回答率 70%以上を維持。[78. 9%]	
	(4) 安全安心な学びの場について、ソフト面及びハード面の両面における整備・提供	(4)・全生徒対象の情報会議を開催し情報の周知と支援計画をすすめる。 ・SSW・SC を活用した校内体制の充実と、保護者の理解を得て、子ども家庭センターや市町村関係部局と密に連携をとり、安全・安心な学びの場づくりをめざすとともに、ヤングケアラー等の家庭環境を把握し外部機関との連携を模索する。 ・「いじめ」の対応について引き続き校内体制の充実をはかる。 ・生徒の安全確保の観点から生徒の活動場所の安全点検の実施と環境整備を継続する。	(4)・生徒支援会議及び校内生徒情報会議を各 4 回実施[4 回] ・学校教育自己診断（保護者）の相談等に関する設問で肯定的な回答率 70%以上維持。[77. 8%] ・学校教育自己診断（生徒）のいじめに関する設問で否定的な回答率 20%以下を維持。[15. 8%] ・校内安全点検を 2 回以上実施[2 回] ・学校薬剤師・産業医とも連携して設備の安全状況把握等に努め施設の点検・改善。点検 6 回以上実施[6 回]	

府立和泉総合学校 定時制の課程

3 学校運営の活性化と教職員の資質・能力の向上	(1)学校運営の活性化 (2)教職員の資質・能力の向上とリーダーの育成 (3)同僚性の向上と活気のある職場づくり	(1)・年度末の総括を踏まえ、各分掌、各委員会、各学年における自由な意見交換を経て、各分担業務の改善をはかる。 ・学校教育自己診断結果等を学校運営協議会等で共有し、意見を集約して学校運営に生かす。 (2)・0JT と校外・外部研修を組み合わせ、個々の教職員のキャリア形成に必要な資質・能力の向上をはかる。 (3)・同僚性を向上し、互いに切磋琢磨する職場をつくる。 ・各分掌、各委員会、各学年等において適切に業務分担し、各教職員がそれぞれの得意分野を生かした充実感を持つことができる雰囲気を作ること で、活気のある職場づくりをめざす。	(1)・学校教育自己診断（教員）の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の肯定的回答率 50%以上を維持。 [55.0%] (2)・ 他校定時制教員との交流会の実施。[1回] ・SC SSW による職員研修を1回以上実施。[1回] (3)・ストレスチェック「同僚からのサポート」の評価について偏差値前年度以上。 [33] ・ストレスチェックの「仕事のコントロール」における評価について偏差値 55 以上。 [58]	
4 開かれた学校づくりの取り組みを推進	(1)地域との連携、地元中学校および保護者等への広報 (2)地域とともに歩み、親しまれる学校づくり	(1)・秋季生徒発表大会等へ積極的に参加し、教育活動の成果や学校行事について学校 HP を活用して定時制の取組みを中学校や地域に対して広報をすすめる。 ・保護者の学校活動への参加を促進する。 ・学校見学・説明会の申込を随時受け付け、生徒・保護者・中学校教員にアピールする機会を設ける。 (2)・生徒会をバックアップしこども食堂支援活動を充実させる。 ・教員による学校周辺地域の清掃活動を、毎日のあいさつ運動時に行う。 ・地域で連携できる団体等を探しモノづくり体験教室等を開催する。	(1)・生徒の学校行事や課外活動における様々な活動について HP を 40 回以上更新 [45 回] ・文化祭への保護者参加数を 20 人以上。[18 名] ・学校見学・説明会の随時実施回数 10 回以上実施。[15 回] (2)・生徒会によるこども食堂支援 8 回以上参加 [9 回] ・全生徒登校日のあいさつ運動時に学校周辺清掃を実施 ・モノづくり体験教室等を 1 回以上開催 [新]	
5 校務の効率化と働き方改革の推進	(1) 労働環境の保全と校務の効率化を推進 (2) 労働安全衛生管理体制に関する業務量管理・健康確保措置計画に基づき働き方改革を推進	(1)・安全衛生委員会に準じた会議を行い労働環境の安全と働きやすい環境の向上を推進する。 ・全ての会議を精選し効率化する。 (2)・業務を精選し効率化により労働時間の短縮をめざす。 ・業務を精選し出勤時間と退勤時間を適切に管理し安全衛生に関する会議にて改善を検討する。 ・休みやすい環境を育成する。	(1)・安全衛生に関する会議を年間 12 回開催 [11 回] ・職員会議・企画委員会のペーパーレス化 100% [77%] ・支援会議のペーパーレス化 100% [新] (2)・年間時間外在校等時間が 360 時間以上の教職員数 0 を維持。[新] ・16 日以上の年次有給休暇取得者割合を 60%以上。(初任者等を除く) [48%]	